

第5回一関市水道事業経営審議会

日 時：平成27年12月3日(木)

14時30分～16時30分

場 所：一関保健センター会議室3・4

1 開会

2 会長あいさつ

3 審議

(1) 水道事業ビジョンの体系と概要(案)について

(2) メインテーマについて審議会としての方向性について

(3) その他

4 その他

5 閉会

1. 水道事業ビジョンの体系と概要（案）について

項目	概要
I はじめに	-
1 一関市の概要	市の概要
2 一関市水道事業の概要	市水道事業の概要
(1)水道事業の始まりと市町村合併	水道事業の成り立ちについて
(2)上水道事業と簡易水道事業	水道事業及び簡易水道事業の紹介（経営統合について言及）
(3)事業の概況	-
①水道事業会計分	水道事業会計の事業概況・経営状況（数値）
②簡易水道事業特別会計分	簡易水道事業特別会計の事業概況・経営状況（数値）
3 一関市水道事業ビジョン策定の背景	水道事業ビジョンを策定するに至った経緯
II 一関市水道事業の現状と課題	-
1 水需要	-
(1)給水人口と給水量	過去10年間の上簡別の給水人口と給水量（数値・グラフ）
(2)給水人口と給水量の分析	-
①給水人口	給水人口の推移と将来の見込み
②給水量	給水量の推移と将来の見込み
2 施設	-
(1)水源・浄水場・配水池	市内水道施設一覧
(2)導水管、送水管、配水管	水道管延長一覧
(3)有収率	上簡別の有収率の推移（数値・グラフ、全国平均・県平均含む）
(4)水質管理	-
①水源の保護	水道水源保護条例など
②水質検査	水質検査の実施状況

項目	概要
3 経営	-
(1)財務	-
①平成 26 年度決算の状況	平成 26 年度決算の状況
②給水収益と企業債償還金	給水収益に占める企業債償還金の割合（数値・グラフ、上簡別）
(2)効率化	-
①業務の効率化	これまでの業務の効率化の取り組み
②施設の効率化	これまでの施設の効率化の取り組みと効率性に関する統計数値について
(3)職員構成	職員構成の状況
4 サービス	-
(1)給水	-
①給水の状況	給水人口・普及率
②普及地域	給水水圧について
③未普及地域	未普及地域の状況について
(2)給水装置設置資金融資あっせん及び利子補給補助金	水道接続推進施策
(3)貯水槽水道の管理	ビルなど貯水槽使用者への管理指導
(4)専用水道の管理	専用水道設置者への管理指導
(5)鉛製給水管の解消	鉛製給水管の残存状況
(6)料金体系	統一料金表
(7)料金の支払い方法	水道料金の支払い方法とその割合
(8)料金収納率の向上	料金収納率向上に向けた取り組み
(9)広聴広報	水道事業への理解を深めていただくための取り組み
5 リスクマネジメント	-
(1)耐震化	水道施設の耐震化の状況

項目		概要
	(2)非常用発電装置等の整備	非常用発電装置と貯油タンクの設置状況
	(3)災害・事故時の対応	応急給水と復旧作業
III	将来の事業環境	-
	1 外部環境	-
	(1)給水人口	-
	①一関市の総人口	市の総人口の将来の見込み
	②給水人口	給水人口の将来の見込み
	(2)給水量	給水量の将来の見込み
	2 内部環境	-
	(1)施設の更新需要	施設の更新需要の見込み（アセットマネジメント）
	(2)資金の確保	資金の確保の見通し
	(3)職員数の減少	今後見込まれる職員数の減少について
IV	将来像	-
	1 一関市水道事業の将来像	-
	(1)安全	市民が、いつでもどこでも水をおいしく飲める水道
	(2)強靱	自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災した場合であっても、迅速に復旧できる水道
	(3)持続	給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道
V	将来像の実現にむけて	将来像の取り組みに向けて取り組むべき事項
	1 安全	-
	(1)安全な水の供給	-
	①水源における水質管理	環境の変化に対応して必要に応じて水源保護区域を指定します。

項 目		概 要
	②水源水質事故対策	水源で水質汚染事故が発生した場合、水源の管理者等と情報交換を図りながら、浄水場での適正な浄水処理により、常に安全な水道水を供給します。
	③浄水場における水質管理	水源の水質に応じた適切な方法により浄水を行います。
	④送水、配水及び給水における水質管理	濁水の原因となりうる水道管の更新を進めます。
	⑤水質検査	水道法で検査が義務付けられている水質基準項目のほか、水質管理上必要な水質管理目標設定項目の水質検査を実施します。また、給水栓では、色、濁り及び消毒の残留効果（残留塩素）などの検査を毎日実施します。
	⑥鉛製給水管の解消	鉛製給水管の全廃を目指します。
	⑦水安全計画の策定	水源から蛇口までの水の安全を確保するため、水安全計画を策定します。
	(2)未普及地域における水供給	-
	①水道管の布設による水供給	
	②水道管の布設によらない水供給	
	(3)小規模水道の管理	-
	①貯水槽水道の管理	貯水槽水道の設置者に対し、機会を捉えて管理にかかる指導を行っていきます。
	②専用水道の管理	専用水道の設置者に対し、機会を捉えて管理にかかる指導を行っていきます。
	2 強靱	-
	(1)災害対策	-
	①水道施設の耐震化	災害拠点病院や避難所等に供給するための水道施設について優先的に耐震化を進めます。 通常の高齢管更新の際に水道管の耐震化を進めます。
	②停電への備え	非常用発電装置等の整備を進めます。

項目		概要
	(2)復旧の迅速化と応急給水への備え	「災害時における応急活動に関する協定」等に基づき、水道工事業者と協力しながら、迅速な復旧に努めます。 応急給水のために、必要備品等を備蓄します。 お客様や一関市災害対策支援員の参加を得ながら、災害応急活動訓練を継続して実施します。
	(3)広域的な災害対策	引き続き市内における連絡管の整備を進めるほか、市町境・県境にとらわれない緊急連絡管の整備を進めます。 近隣の水道事業体はもちろん、全国の水道事業体と相互に協力し各地の災害に対応します。
3	持続	-
	(1)水道施設の更新	-
	①浄水場等の施設	
	②水道管	
	(2)資金の確保	-
	①水道料金の最適化	3年から5年を目処に水道料金の見直しを行います。
	②滞納対策	口座振替払いへの誘導策を検討します。 より強力な収納対策実施を検討します。
	(3)事業運営の効率化	-
	①公民連携（民間委託）の推進	
	②業務の効率化	一部地域において導入済のマッピングシステムを全ての地域に導入し、知識・経験に頼らない水道管の管理体制を整えるなど業務の効率化を進めます。
	③施設の効率化	
	④組織・機構の見直し	

項目		概要
	⑤お客様サービスの維持・向上	<p>クレジットカード決済の導入など水道料金の支払い方法の拡充について、その費用対効果を検証しながら検討していきます。</p> <p>お客様と相互理解を深めるため、わかりやすい内容で水道広報「いちのせきの水道」を発行します。</p> <p>災害応急活動訓練や水源保全活動にお客様に参加いただくなど、協働の精神でより良い水道事業の運営につなげていきます。</p>
	⑥有収率の向上	<p>老朽管の更新を進めます。</p> <p>有収率が低い地区において、漏水調査を実施します。</p>
	(4)環境への配慮	-
	①省エネルギー対策、再生可能エネルギーの導入	既存又は新設の水道施設において、ポンプ・モーター・受変電機器等の更新・新設を行う際、費用対効果を検証した上で、省エネ機器等を導入します。
	②浄水発生土の有効利用	費用対効果を検証した上で、有価物として再資源化を進めます。
	(5)広域化	
VI	ロードマップと財政計画	-
	1 ロードマップ	各目標の取り組み時期と達成時期について
	2 財政計画	各取り組みを踏まえた財政計画
VII	フォローアップ	計画の進捗を管理し、水道事業ビジョンの実現を推進します。

2. メンテーマについて審議会としての方向性について

(1) 「水道施設の更新」

(たたき台) 実質的な耐用年数を踏まえたアセットマネジメントをもとに、優先順位を定めるなど計画的に施設の更新を進めます。

キーワード

①アセットマネジメント ②法定耐用年数 ③実質的な耐用年数 ④対症療法的
⑤建築、土木、電気、機械、水道管 ⑥特に重要な水道管 ⑦財政(経営)状況
⑧料金値上げ ⑨コンパクトシティ ⑩市民への情報提供 ⑪人口減少 ⑫優先順位

(2) 「未普及地域における水供給」

(たたき台) 水道事業の長期的な財政状況を勘案しながら、未普及地域の解消に努めます。また、飲用井戸等整備事業補助制度により、水道未普及地域での井戸等の整備を支援します。

キーワード

①未普及地域を解消 ②人口減少 ③井戸水等の水源が乏しい又は水質が悪い
④国庫補助金 ⑤一般会計補助金・出資金 ⑥有利な企業債
⑦財政(経営)状況 ⑧水道接続率 ⑨料金値上げ ⑩多様な手法による水供給

(3)「経営の効率化」

◇組織・機構の見直し

(たたき台) お客様サービスの水準を可能な限り維持することに留意しながら、経費の節減、危機管理能力の維持・向上及び技術継承のため水道担当部署の集約を進めます。

◇公民連携（民間委託）の推進

(たたき台) お客様サービスの水準を可能な限り維持することに留意しながら、経費の節減を意識し、業務の継続のため公民連携（民間委託）を進めます。

◇施設の効率化

(たたき台) 安定的な給水を確保した上で、技術的・物理的に可能な範囲で施設のダウンサイジングや施設の統廃合を進めます。

キーワード

- ①経費の節減 ②職員数の削減 ③危機管理能力 ④技術継承
- ⑤お客様サービスの水準 ⑥業務の継続 ⑦委託分野を慎重に検討
- ⑧ダウンサイジング ⑨施設の統廃合

(4)「広域化」

(たたき台) 現行の枠組みの中で経営の効率化を進めた上で、近隣水道事業者とソフトな連携の検討を進めます。

キーワード

- ①経営の効率化 ②スケールメリットを生かした事業運営 ③ソフトな連携
- ④具体的な連携の検討 ⑤広域化によるメリット